

1 学校の状況と地域の実態

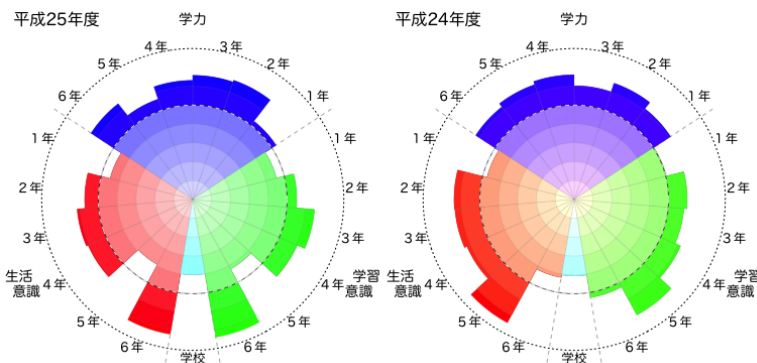
- (1) 全体的な学力はどの学年も高いが、個々の学力には習熟の差が見られる。一人ひとりにより確かな学力が身につくことができるような授業力の向上が必要である。
- (2) 自分の思いを伝えることは好きな子が多いが、人の思いを受け止めたり、自分の思いを深めたりすることが弱いという実態を踏まえ、重点研究で「コミュニケーション能力の育成」という主題で、相手意識をもった人とのかかわり方について24年度から研究を進めている。
- (3) 協力的な家庭が多く、子どもの生活スタイルも安定している。しかし、高学年になるに従って睡眠時間の確保が難しいといった実態があるため、家庭との連絡を密にしていかなければならない。
- (4) 地域の教育力を大切にしたり取り組みを行っている。ボランティアを活用した学習を積極的に取り入れている。このことにより本物に触れる機会や体験する時間を多くとることによって、興味をもって学習に取り組めるようにしている。

2 今後2年間の方向（中期学校経営方針）

(2) 学力向上に関する指導の目標・方針（平成27年度末の姿）

- 学び合いを通じた表現活動の充実により、「コミュニケーション能力の育成」が図られるとともに、市学力学習状況調査における国語科の「書く」「話す・聞く」等の表現の観点で、4ポイント向上しています。
- 反復問題を行ったり、用具を用いて作図をしたり、朝自習などの時間を確保したりすることにより、算数の「技能」の観点で、4ポイント向上しています。
- 授業を通じた研究や研修を定期的に行い、「やってみたい」「話したい」という授業の構築を行っています。

3 横浜市学力・学習状況調査からの平成26年度の実態把握



(1) 学力の概要と要因の分析

全体的に、横浜市の平均を上回っている状況である。しかし伸び率は低い。学年間で差が開いたのも特徴的である。重点的課題にしている「話す・聞く」が全体的に伸びてきていることから、取り組んだ成果が少し表れているように思う。

(2) 教科学習の状況と課題

- 国語科：「言葉」についての観点が他の観点よりも低い。主語・述語の関係、修飾・被修飾の関係、新出漢字の定着などが課題。
- 社会科：全体的なおおむねできている。
- 算数科：「技能」の観点が課題。
- 理科：「知識理解」の観点が課題。特に植物に関するものが理解度が低かった。

(3) 経年変化の状況と要因の分析（学習・生活意識調査も含めて分析）

学力的には横浜市の平均をすべて上回っているが、生活意識と学習意識では学年間で差が大きくみられた。意識の低下が学力の低下へ直結していることが分かる。まずは意識を上げることから行う必要があると推測できる。

(1) 学校組織としての共通の取組

○学び合いを通じた言語活動の充実 (→重点研究の取り組みを中心に)

授業の中に学び合いの場を取り入れることにより、言語活動(話す・書く・読む・動作化する・話合う・描く・音で伝える・体で表す・・・)を通して、自分の考えを表現する力を育成する。

○教科の特性を生かした言語活動を取り入れ、表現し合い、思考を高め合う実践

- ・子どもの実態を踏まえ、「この力をつけたい。」という思いを大切にした単元づくり。
- ・朝読書の時間を有効的に使って取り組むことで語彙を増やしたり、表現の仕方を知ったりする。

○研修・研究の時間確保と内容 定期的に時間を確保し、交流することによって、授業力の改善・向上を目指す。

重点研究の仮説

言語活動を効果的に取り入れたならば、豊かな言語能力が身に付き自分の言葉で、生き生きと表現する子が育つであろう。

(2) 学年・教科等としての取組

○今年度の取組

第1学年

○行動や経験、作業や出来事の順序に沿って、話す事柄をくわしくする。○興味をもって、最後まで話を聞く。○事柄の順序に沿って、書くことができる。

第2学年

○説明や紹介などの順序に沿って、話す事柄をくわしくする。○大事なことを落とさず、話の順序を考えながら聞く。○「始め、中、終わり」などの簡単な構成を意識して書く。

第3学年

○丁寧な言葉を選んだり、敬体と常体との表現を使い分けたりして話す。○話の中心に気を付けて聞き、質問したり、感想を述べたりする。○原因や理由、エピソード、事例などを取り上げて書く。

第4学年

○聞き手の反応を確かめながら、話の内容が伝わるように工夫して話す。○自分の経験や考えと結びつけたり、比較したりして感想を述べる。○原因や理由、描写や説明を工夫して書く。

第5学年

○事実と感想、意見とを区別して、構成を工夫して話す。○話し手の目的や意図をとらえながら聞き、自分の考えと比べる。○事実と感想、意見などをくわしく書く。

第6学年

○結論付けを明確にしたり、引用や図解、定義づけをしたりして話す。○共通点や相違点、関連して考えたことなどを整理する。○出来事等の描写と観察、実験、調査等の表現の違いを考えて書く。

個別支援学級

○音読学習を多く取り入れ、発音、発声の力を養うことで、言葉によるコミュニケーション能力が育っていく。○実践や実習を通して、具合的な生活の場面でも活用できるようにする。